資料　５

これまでの懇談会における関係者からの主な発言について

１．地域における空港の役割等について

- 北海道では、高速交通体系において、基本的には、現在、航空だけに依存する形であるため、空港の持つ意味は非常に重要。（委員）
- 空港は、地域経済に対して大変貢献しており、観光振興や国際交流の拠点として重要な役割を担うもの。（複数の自治体）
- 地方あっての札幌という視点で、守るべきものはしっかり守る必要がある。（委員）
- 拠点空港は、小さな空港の集まりの結果として成立しているのではないか。（自治体）

２．空港の経営一体化・民間への運営委託等について

経営一体化

- 空港ビル、駐車場、滑走路が別々の管理者により運営されているため、方向性がなかなか一致しないが、一体化すれば魅力の増進が図れるのではないか。（自治体）
- 経営一体化の推進については、より魅力的な空港になるため、非航空系事業収入の拡大は不可欠であり、経営一体化によって航空系事業にもプラスの効果が期待。（自治体）

民間への運営委託等

- 民間でできるものは民間に委ねるという観点から、民営化の可能性を検討することは有意義である。（自治体）
- 民営化という手法が絶対という訳ではないが、今のままで良いのかという思いがあり、民営化も一つの手法ではないかと考えている。（自治体）
- 北海道で一番避けなければならないことは、新千歳空港の民営化だけが進んで、他の空港が取り残されることであり、これは、最悪のシナリオかもしれない。（委員）
- 空港整備や採算性の確保などの課題がある。また、交通インフラとしての空港が有する公共性や大規模災害時に空港が果たす役割などにも十分配慮すべき。（複数の自治体）

３．複数空港の一体運営（バンドリング）について

- 黒字であるのは、新千歳空港だけであり、複数空港の一体経営ということ抜きでは、この問題を議論できないのではないか。（委員）
- 複数空港のバンドリングによる運営は大きな可能性のある選択肢の一つ。（自治体）
- バンドリングについては、各空港の収支のみの議論によるものではなく、それによって相乗効果が生み出されるものでなければならない。（自治体）
- 一部の空港の黒字をもって他空港の赤字を補填することにより、北海道経済の活力を削ぐことがあってはならない。（自治体）
- バンドリングについては、これまでの国のプール制と同じにしてしまうようなものであり、それにより新千歳空港自体の体力の低下が懸念される。（自治体）

４．その他

空港周辺対策について

- 民営化により、新千歳空港周辺地域における住宅防音対策等のレベル低下がないようしっかりとした対応を求めたい。（自治体）
- 空港周辺対策が今後とも維持・確保されることが空港の安定的な運用に必要。（自治体）

空港の安全保障について

- 新千歳空港の危機管理は、国土交通省と防衛省の連携が安全保障上有効。（自治体）

新たな空港運営主体について

- 空港の将来に向けた積極的な経営を進め、地域経済の活性化、雇用の拡大等に取り組む者が新たな空港運営主体として相応しい。（自治体）

国への意見について

- 空港基本施設などの大規模投資については、これまで通り国が実施すべき。（自治体等）
- 民営化の流れの中で、これまで国が負担していた空港運営コストの一部を地方が負担するような状況になることが無いよう、国に申し入れるべき。（自治体）